

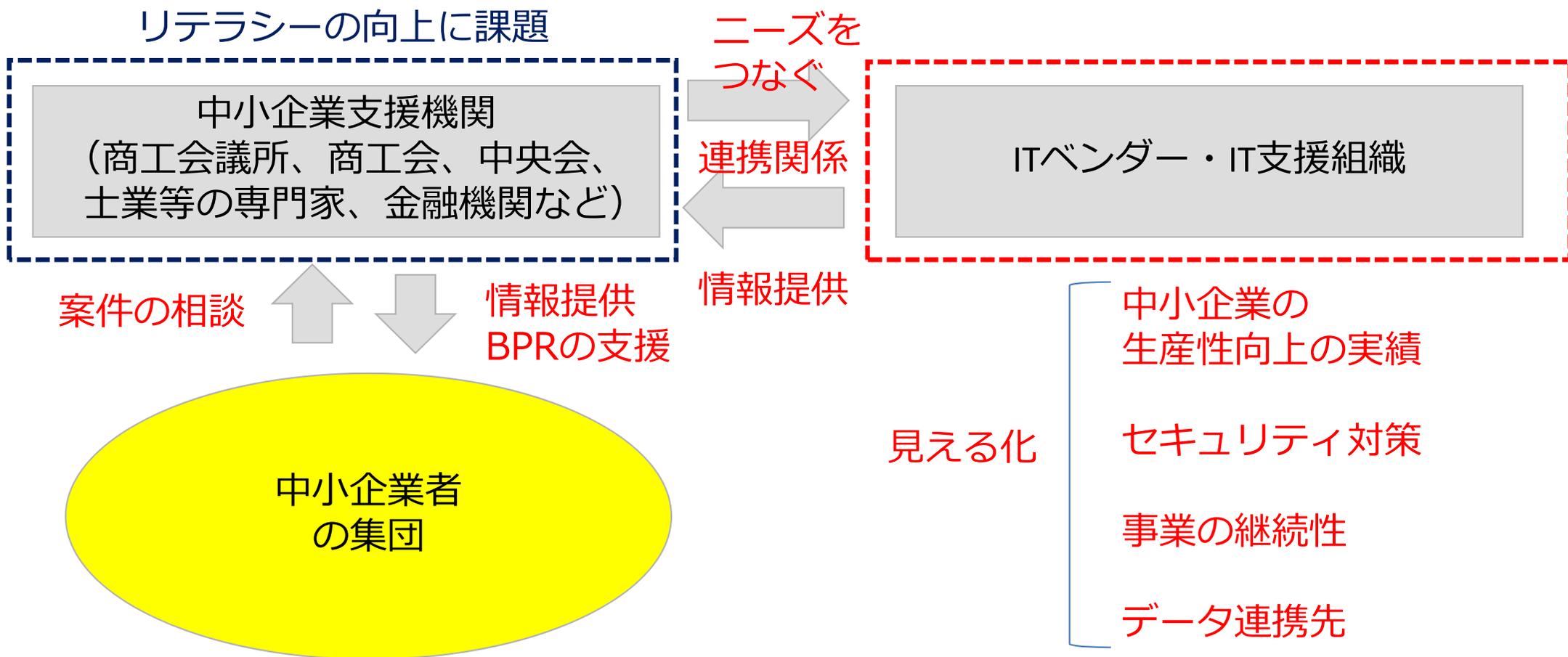
# 今後の対応の方向性について

平成29年4月

中小企業庁

# 1. IT導入支援の枠組みのイメージ

- IT導入支援を加速するための公的な支援の枠組みとして以下を検討（詳しくはP2.P3）
  - ITベンダー・IT支援組織による中小企業の生産性向上の実績、継続性、セキュリティ対策、API連携の見える化
  - 中小企業支援機関との連携
  - BPRの支援



## 2. 具体的な対応の方向性（その1）

### 1. 面的な支援の枠組みについて

- (1) 中小企業・小規模事業者へのソフトウェアやクラウドサービスの導入を支援するため、新たに中小企業のIT導入の伴走支援を導入してはどうか。具体的には、中小企業の地域での伴走組織である商工会・商工会議所、士業等の専門家、金融機関などの地域の中小企業支援機関が、現場でのIT導入の支援を行い、これを後押しするため、ITベンダーや地域におけるIT支援組織など中小企業のIT化をサポートするための組織との連携を促進する。
- (2) 中小企業へのIT導入の前提として、組織の規模が大きい場合や、IT化するプロセスが複雑であるなど、経営課題や業務分析といった大規模なBPRが必要となる場合には、よろず支援拠点等で相談に対応し、よろず支援拠点等から専門家派遣ができるように、枠組みを整理してはどうか。
- (3) 中小企業・小規模事業者のITリテラシーを向上するための施策を強化する。また、支援を現場で行う者となる中小企業支援機関のITリテラシーや指導力向上のための支援についても、創設・強化してはどうか。
- (4) 中小企業・小規模事業者や中小企業支援機関が連携先となる、IT化をサポートする組織については、中小企業の生産性向上に関する実績等について、「見える化」を図ってはどうか（→詳細は、「2.」次ページ。）。
- (5) 国として支援を行う場合には、（4）に協力する事業者を念頭におくべきではないか。2

## 2. 具体的な対応の方向性（その2）

### 2. 「見える化」する内容について

#### （1）中小企業の生産性向上の実績

- ・ベンダーによる中小企業への販売後のフォローを促進する観点から、販売実績のみならず、生産性向上の実績の開示を求めているかどうか。
- ・IT支援組織についても、実績の開示を求めているかどうか

#### （2）セキュリティへの対応

- ・第三者認証、情報処理安全確保支援士の配置の状況など、セキュリティ対策の内容を開示しているかどうか。（例：ISO27001、ISO27018、プライバシーマーク等）
- ・特に、（4）の様に、データ連携を促進するためには、連携先との間のセキュリティ対策の水準に極端な差を設けることは困難となる。

#### （3）事業の継続性

- ・ベンダー側の事業の継続性に係る対応について、開示を求めているかどうか。

#### （4）APIを含めたデータ連携の促進

- ・中小企業者による利便性を促進する観点から、データ連携を促進するため、データ連携先となるソフトウェアやサービスを求めているかどうか。

## (参考) APIを含めたデータ連携の方向性

- データ連携は、様々な分野で深化していくべきと思われるが、例えば、業種毎の生産性向上に資すると考えられる販売・在庫・顧客管理（基幹システム）と会計などの連携が行われることにより、業種の特性を踏まえた「経営の見える化」が促進される。
- また企業の銀行送金電文が2020年までにXML化が図られ、商流情報が記載されれば、従来手入力で行っていた売掛金等の消込作業が不要となり、会計業務が簡素化。

